

## 【弾丸貫通の鏡】

今から 88 年前の昭和 11（1936）年 2 月 26 日未明、陸軍の青年将校らが政府の要人らを襲撃・占拠するというクーデター、いわゆる二・二六事件が起こり、東京四谷の斎藤實私邸も午前 5 時ごろ 150 人を超える兵士に取り囲まれました。

襲撃を受けた斎藤夫妻の寝室は 2 階の奥にあり、部屋の隅には鏡台が置かれていました。わずか 5 分余りの凶行でしたが、実は全身に 47 発もの銃弾を浴び、命を奪われました。

その際、流れ弾が貫通した鏡が今回紹介する“イッピン”です。痛ましいそのひび割れは当時の惨状を物語っています。

実際に使われていた鏡台は右下のようなものでしたが、東京から疎開する際に鏡のみを木箱に収め水沢に運んだため、記念館建設の際に台座を新たに作製し、現在当館 2 階で展示しています。



現在の鏡台



実際に使われていた鏡台